平成７年度厚生省心身障害研究
「女性の健康と児の成育からみた妊娠分娩産褥における母子の保健・医療に関する研究」

分担研究：
近畿大学
研究協力者　星合　昊　小畑孝四郎

要約：妊娠中における早産の原因を知ることを目的として、子宮頸管長、子宮頸管培養、頸管内顆粒球エラスターゼ、癌胎児性フィブロネクチンを測定し、早産との関連性について検討しているが、現時点では妊娠の転帰の結果がまだ出ておらず、今後、その結果を待たなければならない。

見出し語：子宮頸管長、子宮頸管培養、頸管内顆粒球エラスターゼ、早産

研究方法：(Study A)第１回目検査として妊娠１９－２２週に自覚症状、内診所見、子宮頸管長、子宮頸管培養、頸管内顆粒球エラスターゼ、検血・血清ＣＲＰ値を調べた。２回目検査として妊娠２３－２６週に自覚症状、内診所見、子宮頸管長、癌胎児性フィブロネクチンを調べた。第３回目検査として妊娠２７－３０週に自覚症状、内診所見、子宮頸管長を調べ、さらに、面接式アンケート調査を行った。また、妊娠の転帰について追跡調査を行い、早産の原因について検討する。
(Study B)切迫早産として入院管理した症例を対象として、子宮収縮状態、破水の有無、発熱、内診所見、子宮頸管長、検血・血清ＣＲＰ値、頸管内顆粒球エラスターゼ、癌胎児性フィブロネクチン、子宮頸管培養を調べ、さらに、面接式アンケート調査を行った。また、妊娠の転帰について追跡調査を行い、早産の原因について検討する。
　今回、我々はStudy Aを１９例エントリーし調査しているが、Study Bについてはエントリーできなかった。

結果：子宮頸管培養については、培養陰性となったものが６例、 GBS１例、 enterococcus fecalis ２例 Candida aibicans １例、candida glablate２例であったが、早産との関連性についてのデータはない。
頸管内顆粒球エラスターゼ濃度は平均 3670ug/mlであったが、早産との関連性についてのデータは得られていない。
子宮頸管長については、腹緊を認めるもので子宮頸管長の短縮を認めるものがある。
癌胎児性フィブロネクチンを認めたものはない。

考察：早産の原因としては細菌感染などにより羊膜炎が起こるとマクロファージや繊維芽細胞などからインターロイキンや顆粒球エラスターゼなどを放出し、その結果頸管熟化や開大や子宮収縮が起こると考えられている。我々は子宮頸管長、子宮頸管培養、頸管内顆粒球エラスターゼ、癌胎児性フィブロネクチンを測定したが、妊娠の転帰を現在調査中であり、この結果が判明しないと早産との関連性については語れない。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:妊娠中における早産の原因を知ることを目的として、子宮頸管長、子宮頸管培養、頸管内顆粒球エラスターゼ、癌胎児性フィブロネクチンを測定し、早産との関連性について検討しているが、現時点では妊娠の転帰の結果がまだ出ておらず、今後、その結果を待たなければならない。